

## 特別支援教育 副籍(副次的な学籍)制度

～共生社会の実現を目指して～

滋賀県では、障害のある児童が、地域の小学校と県立特別支援学校の双方に学籍を置き、小学校における「共に学び育つ機会」と特別支援学校における「専門的な教育を受ける機会」の両方の実現を目指す副籍(副次的な学籍)制度に取り組んでいます。

制度化から2年目になり、副籍を置く学校で、子どもたちが実際にふれあいながら共に学んでいる様子を紹介します。

### 県立特別支援学校

小学校に在籍する児童が、野洲養護学校(副籍校)で授業に参加しました。専門的な指導を受ける機会として自立活動に取り組んだり、共に学び育つ機会として、教科学習や給食の時間を共にしたりするなど、充実した交流時間となりました。

交流した児童からは『また野洲養護学校に来たい。みんなまた会おうね。』という言葉が聞かれました。



### 地域の小学校

草津養護学校に在籍する児童が、大津市立石山小学校(副籍校)で体育科の学習をしました。

交流2年目の今回の交流授業では、力を合わせて一緒に体育用具の出し入れをしたり、最後は笑顔のハイタッチでお別れをしたりする姿が見られ、お互いの距離感の縮まりを感じられる交流授業となりました。



副籍制度の詳細はこちら



問合せ先 特別支援教育課 ☎077-528-4643

## 令和5年度 「わたしがやります!学校CO<sub>2</sub>ネットゼロ」 取組コンクール

滋賀県では、2050年までに県内のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量を実質ゼロにする「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロ」を目指しています。

CO<sub>2</sub>ネットゼロの普及・推進を目的とした小・中学校の取組計画について、昨年度から活動を行っている取組継続校2校に加え、新たにグッドプランナー校4校が選ばれました。

### グッドプランナー校

#### 大津市立大石小学校 特別支援学級

生ゴミから堆肥を作る取組を通してゴミ削減について考えています。

#### 東近江市立布引小学校 PTAと全校児童

アルミ缶リサイクルに取り組み、CO<sub>2</sub>削減を目指しています。



#### 日野町立日野小学校 環境・園芸委員会

ゴーヤのグリーンカーテンを育て電気の節約に取り組んでいます。

#### 東近江市立朝桜中学校 生徒会本部・福祉委員会

駅舎の清掃活動を通して、地域と環境について考えています。



### 取組継続校

#### 近江八幡市立武佐小学校 保健委員会

今年度も、ペットボトルキャップを集めて、世界の子どもたちにワクチンを送る取組を続けています。

#### 大津市立葛川中学校 第3学年

今年度は、水車を製作し、地域の水資源を利用して、CO<sub>2</sub>を排出しない水力発電に取り組んでいます。

令和6年度の取組コンクールの募集は令和6年度5月頃を予定しています。

問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4662

## 幼保小接続 子どもの「やってみたい!」を大切に

幼児期は、「生きる力」の基礎を育てる重要な時期です。

### 5歳児

子どもたちは園で、自分の好きな遊びや活動に夢中になることを通して様々なことを学んでいます。

お店屋さんごっこが始まりました。自分がイメージするお店に必要なものをどうやったら実現できるのか、友だちと協働し、粘り強く試行錯誤します。

「メニュー表があるよ」、「買ってもらえるよう“おすすめ”って書いたらどうかな」。メニュー表にも「おすすめ」にも文字が必要です。難しい文字も五十音表を見て、自分なりになんとか書こうとします。「お店には、レジがある!」箱を組み合わせ、紙を貼り、数字を書き込んでいきます。

必要感をもって文字や数を読んだり書いたりすることを通して、文字には、人に伝える役割があることに気付きます。また、様々な形を組み合わせることを通して、形やその長さなどの特徴にも気付いていきます。



買ってもらえるよう“おすすめ”って書いたらどうかな?

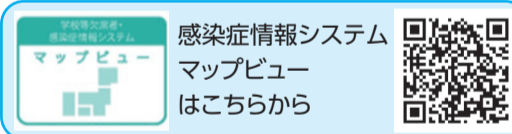


幼児教育でも小学校教育でも、子どもの興味や関心をもとに、友だちと協働しながら遊びや学習を進めることを大切にしています。家庭においても、子どもの「やってみたい」を大切に、大人も子どもと共に考え、楽しむことで、子どもの学ぶ意欲が育まれます。

問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4661

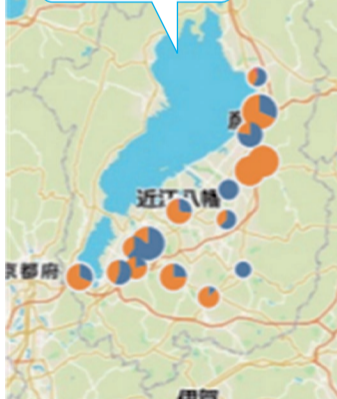
## 目で見る! 感染状況

県内各学校園が日々の感染状況を登録している「学校等欠席者・感染症情報システム」に感染情報を地図上に表示する機能「マップビュー」があります。「マップビュー」では県別、市町別、症状別など様々な視点で確認ができます。お住まいの地域や通学している学校の感染状況の確認に、御活用ください。



問合せ先 保健体育課 ☎077-528-4614

ある日の市町別インフルエンザ出席停止状況



## 今回の『おすすめ本』

管をのぼっていく水、雪の結晶、湯気……。きれいな写真を使って水のふしぎな性質をわかりやすく説明している一冊です。

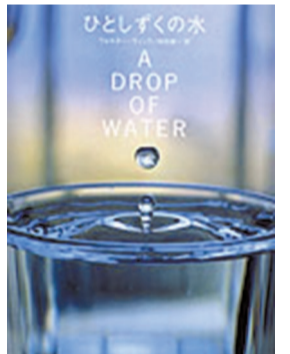


「におねっと」子ども読書活動支援センターのページはこちら

小学校 4~6年向け



子ども読書啓発冊子「本がいっぱい楽しさいっぱい」からの抜粋です。もっといろいろな本を知りたい方は「におねっと」に掲載しているデジタル版をご覧ください。



「ひとしずくの水」

ウォルター・ウィック [作] 林田康一訳 あすなる書房

問合せ先 生涯学習課 ☎077-528-4652

## 過去のシリーズ人権教育は、

こちらをご覧ください。



### 問合せ先 人権教育課

☎077-528-4592

父がけがをする前の生活に戻ることはありません。しかし、家で家族と犬と猫に囲まれて暮らす父は幸せそうに見えます。車いすを押して散歩に出かけた時、ふっと父がつぶやきました。「よく毎日病室に来てくれたよなあ。みんなありがとかな。」父にとっては母が支えとなり、母は父を支えたいと思い、その父と母を支えたのは、家族であり、病院の方々でした。一緒に苦しみや喜びを共有できる人がそばにいてくれて、しんどい時の励みとなり生きる力となる、そういった人々のつながりに、私は改めて感謝しました。

事故から二年が過ぎ、ようやく父が自宅へ帰れる日がきました。その頃には父の温かな笑顔が戻っていました。退院する時に、病院の方々が自分のことのように喜んでくれました。単なる仕事としての関わりではない、温かな心のつながりを私は感じました。

父がけがをする前の生活に戻ることはありません。しかし、家で家族と犬と猫に囲まれて暮らす父は幸せそうに見えます。車いすを押して散歩に出かけた時、ふっと父がつぶやきました。「よく毎日病室に来てくれたよなあ。みんなありがとかな。」父にとっては母が支えとなり、母は父を支えたいと思い、その父と母を支えたのは、家族であり、病院の方々でした。一緒に苦しみや喜びを共有できる人がそばにいてくれて、しんどい時の励みとなり生きる力となる、そういった人々のつながりに、私は改めて感謝しました。

## シリーズ 人権教育

### 「父の笑顔」

私の父は、明るくユーモアがあり、人に優しく、よく笑う人でした。

そんな父が事故にあいました。一命を取り留めましたが、首から下を自由に動かせなくなり、怒り、普段、温かな父が入院してから、医師や看護師に対して、怒りをぶつけることが多くなりました。「もう何もしたくない。誰とも会いたくない。」と社会や人を拒絶していました。

家族で父の病室に行くと、父は肩間にしわを寄せて言葉を交わそうともしません。それでも母は、最近の出来事を話したり、家で飼っている犬や猫の話をしたりします。私は、とにかく毎日父のそばにいて話しかけました。

そのような状態がしばらく続きましたが、医師や看護師、理学療法士の方々が、根気よく励ましてくれました。ただ、けがをした直後のリハビリは激痛を伴うようでした。あまりの痛さで「勝手に動かすな!」と怒る父に、「一度に動くようにはならないですよ。でも毎日コツコツと続けていくことが大切です。」と、粘り強く訓練を続けてくれました。病院の方々の熱意に押された父に変化が始め、少しずつリハビリに取り組みようになりました。そのおかげで、自分で肘を曲げたり、肩を上げたりと、できることが増えていき、父の表情も明るくなっていきました。「毎日頑張る姿を見て、こちらも元気をもらっていますよ。」と声をかけられるなど、父の前向きな姿が周りに元気にしていく様子も見られるようになりました。

しばらくして、「もっと頑張れば、家に帰れるかなあ。」と父が言いました。それは生きる望みを無くしつつあった父が、みんなに支えられ、生きる力を取り戻したからこそ、発せられた言葉でした。

